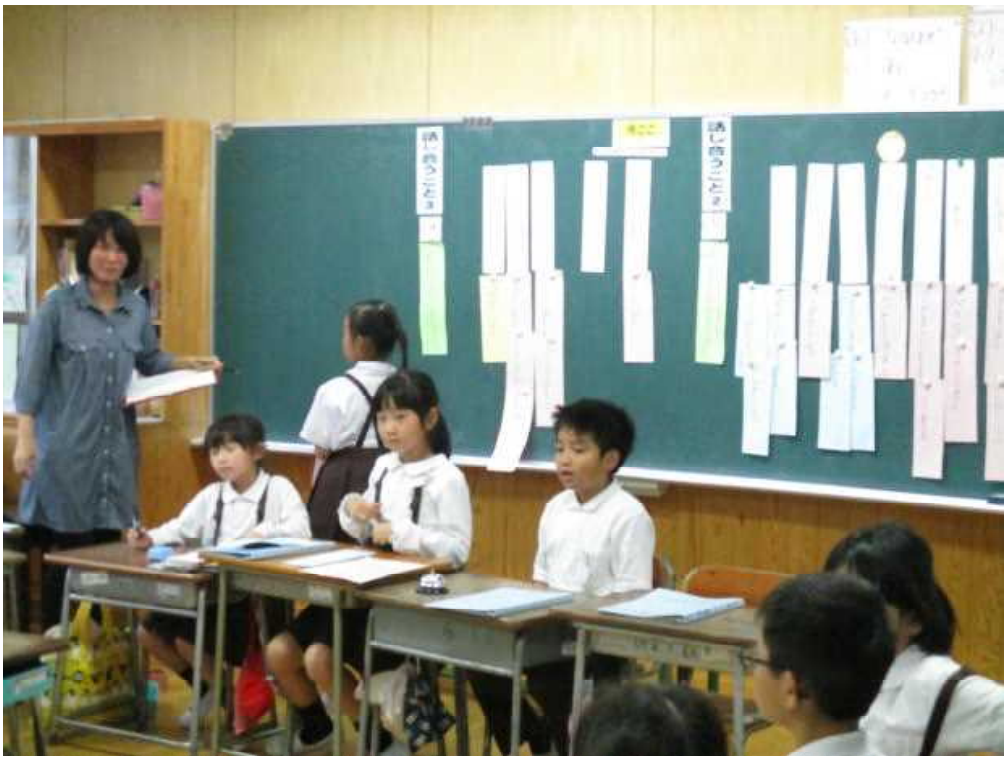
# 特　別　活　動



【授業改善に向けて】　----------　特別活動　1

【学習指導要領改訂の趣旨を踏まえた特別活動の実施のために】　特別活動　2

【実践事例１】　----------　特別活動　3
学級活動　第２学年　議題「２の４ミニオリンピックをしよう」

【実践事例２】　----------　特別活動　7
学級活動　第５学年　議題「ハロウィンパーティをしよう」

# 〈特 別 活 動〉

## 【授業改善に向けて】

### １　主体的・対話的で深い学びについて

新学習指導要領では，まず，「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」の３つの視点に基づき，各活動（学級活動，児童会活動，クラブ活動）及び学校行事を通して育成すべき資質や能力とそのための学習過程が明確化された。

特別活動の活動は４領域（「学級活動」「児童会活動」「クラブ活動」「学校行事」）であり，学級活動には３形態（「(１)学級や学校における生活づくりへの参画」「(２)日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全」「(３)一人一人のキャリア形成と自己実現」）あるが，新学習指導要領では，内容的にも時間的にも学級活動(１)を重視するよう示されており，授業改善にあたっては学級活動(１)，すなわち「学級会」の授業の充実・改善が重要である。

子どもたちの自主性を伸ばし，学校生活を一層楽しくするために，子どもたちが自ら問題を発見する中で「共同の問題」を選定し，解決方法について話し合い，折り合いをつけて集団として合意形成を図ることができるような学級活動(１)の指導が求められている。

そこで，授業の改善・充実にあたっては，「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」の３つの資質・能力の育成を目指し，特別活動の各活動及び学校行事の中でも，特に学級活動(１)の授業改善に取り組む必要がある。

実践にあたっては，どのように学ぶかという視点から，次のような学びを取り入れていく。

**（１）「主体的な学び」を促すために**

学級活動(１)ては，学級や学校の実際の集団生活の中から課題を見出すことに特質があり，その課題は，集団で解決すべき子どもたちの共同の問題でなければならない。集団生活をよりよくしていくために何をすればよいのかを主体的に見出したり，活動を振り返り，よい点や改善点を見付け出したりすることにより，新たな課題の発見・設定が可能となりそれが次なる動機となったりする。こうした課題設定や振り返りといった学習過程を意識し，そこで育成を目指す資質・能力を明確にすることが求められる。

**（２）「対話的な学び」を促すために**

特別活動は，多様な他者との集団活動を基本とし，「話合い」を全ての活動の中で重視している。集団活動を行う上で合意形成を図ったり，意志決定したりする中で，他者の意見に触れ，自分の考えを広げたり，課題について多面的・多角的に考えたりすることが可能となる。

また，異年齢の子どもや障害のある児童生徒など多様な他者と対話しながら協働すること，地域の人との交流の中で考えを広めたり自己肯定感を高めたりすること，自然体験活動を通じて自然と向き合い日頃得られない気付きを得ること，なども重要である。

**（３）「深い学び」を促すために**

特別活動で重視している「実践」を単に行動の場面と狭くとらえるのではなく，課題の発見・設定から振り返りまでの一連の過程を「実践」と捉え，基本的な学習過程を繰り返す中で，各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を総合的に働かせ，各教科で学んだ知識や技能などを，集団及び自己の問題の解決のために活用する。それぞれの学習過程において，育成すべき資質・能力は何なのかということを明確にした上で，意図的・計画的に指導にあたることが求められる。

### ２　授業改善の視点

**〈視点１〉問題意識を喚起する工夫**

○　課題設定までの支援・指導(議題，提案理由，話合い項目の共有)の在り方

**〈視点２〉事前・本時・事後の児童への支援の工夫**

○　合意形成能力を育てる支援・指導(つなぐ話合い，思考の可視化や操作，分類等)の在り方

**〈視点３〉振り返りの工夫**

○　役割を担い，学級全員で実践し，事後につなげる支援・指導の在り方

# 【学習指導要領改訂の趣旨を踏まえた特別活動の実施のために】

## １　学習指導要領の改訂について

特別活動については，移行期間中の特例を定めた告示において，新学習指導要領第６章の規定による教育課程を編成・実施するものとしており，平成３０年度から先行して新学習指導要領による指導内容で指導を行うこととなっている。

## ２　新学習指導要領を実施する上で留意すべきこと

（１）改訂の要点

新学習指導要領における特別活動の改訂のポイントは次の５つである。

○　実践活動や体験活動を通して学ぶことを重視しつつ，「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」の３つの視点に基づき，各活動（学級活動，児童会活動，クラブ活動）及び学校行事を通して育成する資質・能力とそのための学習過程を明確にする。

○　学級の課題を見いだし解決に向けて話し合う活動を重視する。

○　学級活動の内容(３)を新設し，特別活動が学校教育全体で行うキャリア教育の要としての役割を果たすことを明確にする。

○　各活動・学校行事を通して自治的能力や主権者として積極的に社会参画する力を重視する。

○　多様な他者との交流や共働，安全・防災等の視点を重視する。

（２）授業の改善・充実の要点

○　特別活動の深い学びとして，児童生徒が集団や社会の形成者として見方・考え方を働かせ，様々な集団活動に自主的・実践的に取り組む中で，互いのよさや個性，多様な考えを認め合い，等しく合意形成に関わり役割を担うようにすることを重視することとした。

○　小学校，中学校ともに学級活動における児童生徒の自発的，自治的な活動を中心として，各活動と学校行事を相互に関連付けながら，学級経営の充実を図ることとした。

（３）学級活動の内容の改善

○　内容

・　「(１)学級や学校における生活づくりへの参画」
・　「(２)日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全」
・　「(３)一人一人のキャリア形成と自己実現」

〈内容の配分の工夫〉

※　児童の自主性を伸ばし，学校生活を一層楽しくするために，「(１)学級や学校における生活づくりへの参画」に重点を置いた学級活動の指導が行われるよう工夫することが大切である。

○　小学校段階から，学級活動の内容に「(３)一人一人のキャリア形成と自己実現」を新設した。

○　中学校において「(１)学級や学校における生活づくりへの参画」の指導の充実を図るため，(２)(３)の内容を各項目の関連に配慮して整理した。

**〈方向性〉**

【特別活動の要】⇒ 学級活動(1)(学級会)の改善・充実
児童の自発的・自治的活動の推進

**☆ 学級活動(1)で育まれた資質や能力が下の活動に生きる ⇒** 学級会充実が不可欠

学級活動(2)(3)　児童会・生徒会活動　クラブ活動(小学校のみ)　学校行事

# 【実践事例１】 第２学年　学級活動（１）
# 議題　「２の４ミニオリンピックをしよう」

## １　活動を通して育てたい力

○　自分の意見を発表したり，友達の思いを感じながら聞いたりして話合いを進め，合意形成することができるようにする。　（集団活動や生活への関心・意欲・態度）

○　みんなが楽しめるオリンピック集会の内容やルールの工夫について話し合い，協力して実践することができるようにする。　（集団の一員としての思考・判断・実践）

○　みんなで決めたルールや約束を守り，自分も友達も楽しく実践し，みんなで実践できた達成感や成就感を味わうことができるようにする。　（集団活動や生活についての知識・理解）

## ２　活動の展開にあたって

これまで，子どもたちは，「みんなにこにこなかよし４くみ」というクラスの目当てに向い，それをよりどころにして話し合い，実践，振り返りの一連の活動を重ねてきた。計画委員は輪番制で全員経験しており，話合いの仕方（出し合う→比べ合う→まとめる・決める）や多数決に頼らずに意見を聞いて決定していく方法について，体験を通して理解してきた。集会活動では，自分たちで考えたことをみんなで楽しむ喜びや，それぞれの担当の役割をしっかりできた時の達成感を味わってきた。その反面，ルールを守らなかったり，ルールが曖昧だったり，準備が足りなかったりすると，活動が停滞する原因になることも経験してきた。１学期は一人一人が個人でゲームを楽しむことが多かったが，グループ対抗のゲームを体験したところ，みんなで友達を応援して盛り上がり，グループで協力する楽しさを経験することができた。

そこで，それらの経験を踏まえ，グループ対抗で学級オリンピックを開催し，友達と協力して楽しむことができ，一人一人が名人になれるような種目を行うことで，「みんながさらに仲よしになりたい」という思いが高まり，本議題「２の４ミニオリンピックをしよう」が選定された。

そのため，話合いの前に全員に「オリンピック」のイメージを共有させたい。「メダル，国同士の競技，国旗，応援，友好」など，十分にイメージをもたせ，単なる競争ではなく，グループで協力して活動することや盛り上げる工夫が必要であることなどを確認し，自分たちのオリンピックを楽しくしたいという気持ちを高めて話合いをさせたい。また種目については，１学期から休み時間等を利用して経験してきていることを基に，ルールについて改善することがあれば話合いをさせるようにしたい。今までの経験を基に自分の意見を伝え，友達の意見を聞いてその考えのよさに気付き，友達の考えを生かすなど合意形成につなげていきたい。また，話合いを基にルールを守って実践し，「自分たちで仲良く活動できた」という思いや「もっとこうすればよかった」という課題意識をもたせ，次時の活動につなげていくようにする。

**〈視点１〉「問題意識を喚起する工夫」の視点**

○　議題や提案理由を全体に伝え，共通の思いや自分の考えをもって活動するようにする。

**〈視点２〉「事前・本時・事後の児童への支援の工夫」の視点**

○　提案理由や条件を明確にし，全員が目的をもって話合いをし，合意形成できるようにする。

**〈視点３〉「振り返りの工夫」の視点**

○　自分の役割を果たし，振り返りを行い，様々な活動に生かすようにする。

## ３　学習過程

| | 活動内容 | 日時 | 評価規準 | 授業改善の視点 |
|---|---|---|---|---|
| 問題の | ・計画委員会を行い，議題の設定，提案理由の確認をし，全体に知らせる。 | 9 / 13 | ミニオリンピックについて話し合うことに関心をもち，進んで集 | 話合いの必要感が出るように「オリンピック」のイメージをもたせたり |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 発見・確認 | ・やってみたい種目のアンケートをとる。<br>・アンケートの結果発表<br>・話合いの柱や順番など話合いの計画を立てる。 | | 団活動に取り組もうとする。<br>（関心・意欲・態度） | 種目の経験をさせたりしておく。<br>〈視点１〉 |
| 話合い | ・「２の４ミニオリンピックをしよう」 | 9/27<br>（本時） | 提案理由に合わせて意見を出したり，友達の意見を聞いたりしている。<br>（思考・判断・実践） | 提案理由や条件を明確にし，全員が目的をもって話合いをし，合意形成できるようにする。<br>〈視点２〉 |
| 実践 | ・係分担をする。<br>・係ごとに準備する。<br>・自分の役割を行い，ルールを守って活動を進める。 | 休み時間<br>10/ ５<br>５校時 | 話合いで決まったルールや自分の役割を考えながら楽しく活動している。<br>（思考・判断・実践） | ・仲よく協力して活動できた様子を称賛し，達成感や成就感をもたせる。<br>〈視点３〉 |
| 振り返り | ・活動について振り返り，成果と課題を見つけ，次の活動に生かす。 | 10/ 9<br>朝の会 | ・活動を振り返り，活動の成果や課題，自分や友達のよかった点や頑張ったことを見つけている。<br>（思考・判断・実践） | ・成果と課題を明確にさせ，これから課題に主体的に取り組んでいくことができるようにする。<br>〈視点３〉 |

**４　活動計画**

| | |
|---|---|
| 議　　題 | 「２の４ミニオリンピックをしよう」 |
| 提案者<br>提案理由 | W・Yさん<br>１学きやった「生きのこりゲーム」では，早くおわってしまった人もグループの友だちのおうえんをしてもりあげることができました。そこで，こんどはクラスでオリンピックをして，グループごとにきょうそうをしたいです。うんどうがにが手な人もできるしゅもくにすれば，だれでも名人になれると思います。みんなできょうりょくして，楽しくできれば，みんなえがおになれると思ったので，ていあんします。わたしは，メダルを作ったり，グループのはたを作ったりしてもりあげたいです。 |
| 本時までに話し合ったこと | 何の種目を行うか（アンケートより） |

| 話合いの順序 | 時間 | ○　指導上の留意点　　※　評価 |
|---|---|---|
| １　はじめの言葉<br>２　学級の歌<br>３　役割紹介<br>４　議題の確かめ<br>５　提案理由の説明 | 5 | ○　自分の考えを事前に記録カードにまとめておくことで，一人一人が自分の考えをもって参加できるようにする。<br><br>○　提案理由の大切な部分だけ掲示し，話合いのよりどころ |

| | | |
|---|---|---|
| 6　条件の確かめ<br>○　教室でやる。<br>○　時間は１時間とする。（昼休みから）<br>○　４種目とし１種目１０分程度で行う。 | | とする。<br>○　話合いの条件について事前に知らせておく。<br>【ゲーム】・新聞玉入れ　・数え棒つなぎ<br>・頭に新聞のせ　・エアー自転車 |
| 7　話合い<br>（1）グループで楽しむためのルールの工夫 | ３５ | ○　これまでの遊びの経験を基に改善した方がよいルールや約束について話し合うようにする。<br>○　グループで協力して，楽しめるためのルールを決めることを必要に応じて助言をする。<br>○　子どもたちで話し合って進めるようにするが，話合いが停滞した場合には，話合いを整理する助言や提案理由に立ち返る助言を行うようにする。<br>○　自治的範囲を越えるような意見が出された場合には，指示的助言を行う。 |
| （2）盛り上げる工夫 | | ○　工夫については，１つに限定してしまうことのないようにするため，取り入れた方がよい考えは複数決定してよいことに気付かせる。 |
| 8　決まったことの発表 | | ※　提案理由に合わせて意見を出したり，友達の意見を聞いたりしている。（観察） |
| 9　振り返り | 5 | ○　話合いについて自己評価し，話合いに対する成果や課題や友達のよかった点について振り返る。 |
| 10　先生の話 | | ○　計画委員や話合いに意欲的に取り組んでいた子ども，友達のことを考えた発言等を称賛する。また，課題も明確にさせ，次時に生かせるようにする。 |
| 11　おわりの言葉 | | |

## ５　実践の考察（成果：○　課題：●）

### 〈視点１〉問題意識を喚起する工夫

議題や提案理由を全体に伝え，共通の思いや自分の考えをもって活動するようにする。

子どもたちがオリンピックの種目になるようなゲームの経験が少ないことから，休み時間等を利用しいろいろなゲームを経験させてきた。また，道徳科の「オリンピックとパラリンピック」という授業を活用し，オリンピックについてのイメージを全体で共有してきた。話合いの中で，子どもたちから「どの種目をやっても楽しい」という意見が出されたので，種目はアンケートで決定した。その中の「頭に新聞のせ」と「エアー自転車」は，これまでに体験してきたので，グループ対抗にするためのルールを決めることになった。事前に計画委員が話合いの柱を知らせ，ルールについて考える時間を設定した。

○　「頭に新聞のせ」や「エアー自転車」の種目をグループ対抗で行うためのルールについて事前に考える時間を設定したところ，児童が実際に体験することでイメージが明確になり，一人一人が自分の考えをもつことができた。

### 〈視点２〉事前・本時・事後の児童への支援の工夫

提案理由や条件を明確にし，全員が目的をもって話合いをし，合意形成できるようにする。



ルールを実際にやりながら説明

話合いでは，子どもたち自身が自分たちで考えたルールを実際にやって見せながら，積極的に友達に伝え，発表することができた。子どもたちの説明で分かりにくいところは，他の子どもが代わりに説明したり，分からないことを質問したりする姿が見られた。

計画委員は，賛成意見の理由と反対意見の理由を色別に分けた用紙に書き，分類した。司会には，多数決に頼らず，提案理由をよく確認し意見をまとめ，決めていくよう助言した。



旗を振って応援する様子

実際の活動では，あまり勝ち負けにこだわらずに，各グループで協力して仲よく楽しんでいた。学級のマークを応援旗のようにして一人１個作り，他のグループがやっている時もそれを振って応援していた。

種目を終えた後，合計点を出し，３位まで入賞したグループにはメダルを，その他のグループには参加賞をあげていた。最後に握手タイムを設けて，グループ全員が握手をして，和やかに活動が終了した。

○　話合いにおいては，事前で活動に対するイメージをもつことができていたため，自分たちのこととして思いをもって参加することができた。様々な意見が出される中，提案理由をしっかり確認・意識するとともに，友達のことを考え，出された意見を合わせる考えも提案され，多数決に頼らずに，合意形成を図る姿が見られた。

●　時間が足りず，話合いの柱２まで話し合うことができなかった。その原因として，反対意見が多く発表されたことや，記録係が板書のための短冊に書くのを待っていたこと，時間をあまり意識していなかったこと，などが考えられる。否定的な意見ではなく，肯定的な意見が多く出される話合いの仕方を，体験を通して学ばせる必要がある。また，時間内に終わらなかった原因を子どもたちに考えさせ，失敗経験を改善させる経験も必要だった。教師が記録係を補助する必要もあった。

**〈視点３〉振り返りの工夫**

| |
|---|
| 自分の役割を果たし，振り返りを行い，様々な活動に生かすようにする。 |

話合いの振り返りでは，話す・聞く・理解する・よいところを見つける，の４観点で自己評価させ感想を書かせた。友達のよいところに目を向けられるように，教師がいろいろな場面でよかった子どもを取り上げ，称賛してきた。また，活動の振り返りでは，よかったところと課題を書かせて，全体に伝えてきた。

○　今回の話合いや実践活動を通して，グループで協力して種目を行ったり，みんなで応援し合ったりしながら学級のオリンピックを盛り上げて成功させる楽しさを味わうことができた。メダルを渡す時にメダル係３人の分担が決まっておらず，渡すことができなかった児童も見られた。終末で「どうすればよかったか」と問いかけ，「仲良くやればよかったと思う。」「最初に誰が何をするか決めておけばよかったと思う。」などの意見が出されたことで，係の仕事も最後まで決めなければならないことを学ぶことができた。

○　生活科で１年生を招待して「おもちゃまつり」を行ったところ，１年生を楽しませるにはどうしたらよいか考えながら主体的に活動する場面が多く見られ，学級会で培ってきた力を生かすことができた。

●　個人の振り返りを全体でも共有しながら，次の活動につなげ，よりよい経験ができるように指導していく必要がある。　（文責　渡邉　千晶）

## 【実践事例２】 第５学年　学級活動（１）
## 議題　「ハロウィンパーティをしよう」

### １　活動を通して育てたい力

○　みんなでアイディアを出し合ってハロウィンパーティをすることの意義を理解し，学級集団としての意見をまとめる話合い活動の効率的な進め方を身に付けようとする。
（集団活動や生活への関心・意欲・態度）

○　ハロウィンパーティの内容や工夫について，話合いを通して合意形成を図り，自分の役割や責任などを考え，協力し合って実践することができるようにする。
（集団の一員としての思考・判断・実践）

○　ハロウィンパーティについて話し合って解決しようとする態度や，友達と協力して自主的に集団活動に取り組もうとする態度を養う。　（集団活動や生活についての知識・理解）

### ２　活動の展開にあたって

本議題は「ハロウィンパーティをしよう」である。子どもたちは，４年生の時に，やりたいことのグループに分かれて出店を作って楽しむ集会「お祭り」を行っている。また，得意なことをグループや個人で発表するお楽しみ会「クリスマス会」も行ってきている。どちらも準備や実践を通してその楽しさを十分に味わうことができた集会活動であった。また，４年生の最後に行った集会「お楽しみ会」が，インフルエンザの流行により全員参加できず不完全燃焼で終わってしまったこともあり，５年当初から，「もう一度みんなでちゃんとお楽しみ会をやりたい」という強い願いが提案されていた。

そこで今回，１学期にやりたかったお楽しみ会がまだできていなかったこと，２学期になってみんなでがんばって練習してきた陸上大会が終わること，１０月はハロウィンの季節でもあるのでハロウィンらしいことも取り入れてみたいということから，みんなで盛大にハロウィンパーティを行い，陸上大会に向けてのお互いのがんばりをたたえ，さらに仲良く，団結力のある学級にしていきたいという思いから本議題が選定された。

今まで行ってきた集会活動では，やりたいことのアイディアがふくらみすぎて，その実現のための準備や会の進行における時間の使い方には課題が残った。今回の集会は，４年生の時に行った「お祭り」と「お楽しみ会」の合体型となっていることから，準備においても，会の進行においても，時間を有効に使っていくことが必要になってくる。そこで，実際の場面や時間を想定しながら，より具体的にアイディアを出し合ったり，合意形成を図りながらやりたいこととやれることを見極めていくことができるように，タイムスケジュールを書き込めるプログラム表や集会までの準備期間を視覚的にとらえさせるためのカレンダーを準備し，それを使って話し合わせていきたい。

話合いで決まったことを，みんなで協力して実践していくことで，自己有用感を味わわせ，お互いのよさを認め合うことができるようにしたい。そして，話合い及び実践を通して振り返りを行うことで，また次時の活動につなげていきたい。

**〈視点１〉「問題意識を喚起する工夫」の視点**

○　提案された議題案や提案理由について，事前に全体で話し合い共有化を図ることで，自分の考えをしっかりもって学級会に臨むことができるようにする。

○　４年生の時に行った集会の写真やアンケートの結果を提示しておくことで，集会のイメージをもてるようにする。

**〈視点２〉「事前・本時・事後の児童への支援の工夫」の視点**

○　プログラム表やカレンダーを準備し，実際の場面や時間，準備期間を想定した話合いがで

きるようにする。

○　決まったことをプログラム表やカレンダーに書き込み，それをもとに集会の準備を進められるようにする。

**〈視点３〉「振り返りの工夫」の視点**

○　話合い後，学級会カードに，自分のがんばりや友達のがんばりを書かせることで，話合いへの参加の仕方を振り返り，今後の自分の取り組みについて意識できるようにする。

○　ハロウィンパーティの実践後に全体で振り返りを行い，次時の活動へつなげる。

## ３　学習過程

| | 活動内容 | 日時 | 評価規準 | 授業改善の視点 |
|---|---|---|---|---|
| 問題の発見・確認 | ・どのような目的で話合いをするのか計画委員が全員に周知する。<br>・事前に具体的な自分の考えをもって話合いに参加できるように準備しておく。 | 9 ／ 22 ～ 10 ／ 5 | ハロウィンパーティについて話し合うことに関心をもち，自主的に集団活動に取り組もうとする。<br>（関心・意欲・態度） | 話合いの必要感がでるように，「ハロウィンパーティ」についてのイメージをふくらませておく。<br>〈視点１〉 |
| 話合い | ・「ハロウィンパーティをしよう」 | 10 ／ 5（本時） | 提案理由やキーワードに着目して意見を出したり比べたりして，全員が納得できる話合いができる。<br>（思考・判断・実践） | 提案理由のキーワードを示すことで話合いの焦点化を図る。〈視点１〉<br>実際の場面や時間，準備期間を想定した話合いができるように，プログラム表やカレンダーを準備する。〈視点２〉 |
| 実践 | ・決まったことをもとに準備する。<br>・自分の発表や出店，役割や責任を考えて活動を進める。 | 10 ／ 30 ふれあいタイム ～ ５校時 | 話合いで決まった発表や出店，自分の役割や責任などを考え，協力し合って楽しく会を進めている。<br>（思考・判断・実践） | 全員が責任をもって活動できるように見守るとともに一人一人を称賛し，学級の一員としての役割を果たしているという意識を育む。〈視点３〉 |
| 振り返り | ・活動の成果や過程について振り返り，集会活動の成果と課題を次の活動に生かす。 | 10 ／ 30 | ハロウィンパーティを振り返り，互いのよさや頑張りを見つけている。<br>（思考・判断・実践） | 一人一人の振り返りを価値付け，次時の活動に生かすことができるようにする。<br>〈視点２〉 |

## ４　活動計画

| | |
|---|---|
| 議　題 | 「ハロウィンパーティをしよう」 |
| 提案理由 | 私たちは，２学期になってから，朝も放課後もみんなで陸上の練習をがんばって |

| | |
|---|---|
| | きました。１学期にやりたかったお楽しみ会がまだできていなかったこともあるし，陸上大会のがんばりをたたえる意味でも，そのがんばりをみんなで祝う会を行い，さらに５年生みんなが仲良くなれるようにしたいと思い，提案しました。１０月はハロウィンでもあるので，ハロウィンっぽいことも取り入れて，盛大にやってみたいです。 |
| 本時までに話し合ったこと | ・全員が発表も出店も両方やる。 |

| 話合いの順序・内容 | 時間 | ○　指導上の留意点　　※　評価 |
|---|---|---|
| 1　はじめの言葉<br><br>2　学級の歌<br><br>3　役割紹介<br><br>4　議題の確かめ | 5 | ○　自分の考えを事前にノートにまとめておくことで，一人一人が自分の考えをもって参加できるようにする。 |
| 5　提案理由の確かめ<br><br>6　条件の確かめ<br>・日時，場所 | | ○　提案理由をキーワードで示すことで，どんな集会にしたいのか共通理解を図ることができるようにする。　〈視点１〉 |
| 7　本時までに話し合ったことの確かめ | | ○　話合いの焦点がずれないように，条件や決まっていることの確認をしっかりと行わせる。 |
| 8　話合い<br>（1）どんなことをやるか。<br><br>（2）ハロウィンらしくするための工夫<br><br>（3）どんな係が必要か。<br><br>9　決まったことの発表 | ３５ | ○　実際の場面や時間を想定した話合いができるように，時間配分を書き込めるプログラム表を準備し，それを見ながら話合いを行わせる。　〈視点２〉<br><br>※　提案理由やキーワードに着目して意見を出したり比べたりして，全員が納得できる話合いができる。　（発言・表情・学級会ノート） |
| 10　振り返り | 5 | ○　自分や友達のよさ，前回の学級会と比べてよかった点や改善点などを振り返る。〈視点１〉 |
| 11　先生の話<br><br>12　終わりの言葉 | | ○　活動に対する思いや，みんなで楽しく活動したいという気持ちを込めて話し合ったことの価値付けをするとともに，今後の活動の意欲付けを図る。 |

## ５　実践の考察（成果：○　課題：●）

### 〈視点１〉問題意識を喚起する工夫

提案された議題案や提案理由について，事前に全体で話し合い共有化を図ることで，自分の考えをしっかりもって学級会に臨むことができるようにする。
４年生の時に行った集会の写真やアンケートの結果を提示しておくことで，集会のイメージをもてるようにする。




話合いに向けて，提案された議題案や提案理由について事前にじっくり話し合い，「何をどのようにやりたいのか。」「なぜそれをやりたいのか。」「それをやることで学級をどうしたいのか。」を明確にした。そして，提案理由をキーワードで示した。また，集会のイメージをもたせるために，今回の提案理由に関わる４年生の時に行った集会の写真を掲示しておいた。その他，事前の話合いの中で決まっていた「発表」と「出店」について，自分がやりたいことのアンケートをとり，出されたものを短冊ボードに書き，あらかじめ提示しておいた。

**議題・提案理由の共有化／アンケート結果の提示**

○　議題や提案理由について，事前に話合いを行うことで「ハロウィンパーティ」についてイメージや自分の考えを具体的にもつことができた。また，事前の話合いを通して，事前に決めておけること，学級会の中でみんなで話し合った方がいいことを見定めることができ，話合いの柱を決定することができた。

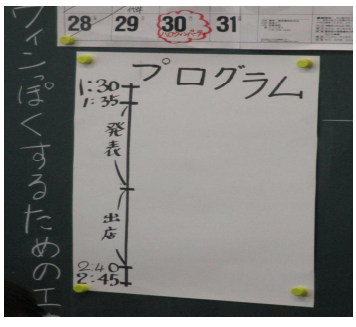
○　前学年で行った集会の写真を掲示しておいたことで，実際の集会の場面を想定して，話合いの柱に対する自分の考えをもったり，実際に集会を行うときに課題となりそうなことを考えたりすることに役立った。

●　議題や提案理由や話合いの柱立てに関することを，事前に話合いする際には，どこまでが事前に決めておいていいことか，どこをみんなで話し合わなければならないかを見極めることが大切である。その上で，何を話合いの柱にするか決定していく必要がある。

### 〈視点２〉事前・本時・事後の児童への支援の工夫

プログラム表やカレンダーを準備し，実際の場面や時間，準備期間を想定した話合いができるようにする。話合いで決まったことをプログラム表やカレンダーに書き込み，それをもとに集会の準備を進められるようにする。




ハロウィンパーティまでの道のり（カレンダー）とプログラム表

今まで行ってきた集会活動では，やりたいことのアイディアが膨らみすぎて，その実現のための準備や会の進行において，時間の使い方に課題が残った。また，今回は，発表と出店の両方をやることになったので，実際の場面や時間，準備期間を想定

した話合いを行わなければならない。そこで，準備期間を意識させるためのカレンダーと実際の場面を想定できるようなプログラム表を提示した。

○　カレンダーを提示したことで，学級会からハロウィンパーティまでの準備期間を意識した発言が出された。

○　事前にとったアンケートの結果を短冊カードに書き，提示しておいたことで「出し合う」時間を短縮することができ，「比べ合う」時間をしっかり取ることができた。また，短冊カードの活用により，黒板記録の作業の軽減化を図ることができた。さらに，短冊カードは移動することができるので，意見を分類・整理することができ，構造的な板書につながった。



短冊カードを移動しながらまとめていく黒板記録

●　ハロウィンパーティまでの日数は意識できていたが，出されたアイディアのほとんどを行うことに決定した。その一方で，準備のための作業内容や作業時間についての意見が出されなかったことが残念である。準備の大変さを体感することで，次の話合いへとつながることを期待したい。



出された意見のほとんどに決定マークがついた

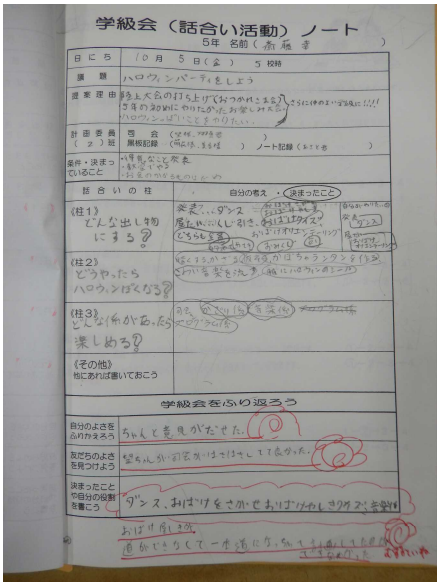
**〈視点３〉振り返りの工夫**

話合い後，学級会カードに，自分のがんばりや友達のがんばりを書かせることで，話合いへの参加の仕方を振り返り，今後の自分の取り組みについて意識できるようにする。ハロウィンパーティの実践後に全体で振り返りを行い，次時の活動へつなげることができるようにする。

○　話合いについては，学級会ノートに振り返りを書かせることで，自分や友達のがんばりを認めることができた。回を重ねるごとに振り返りの内容も深くなってきている。

○　今まで行ってきた学級会や集会活動について，学級活動コーナーに写真などを掲示し，振り返りの場としている。そして，それがまた次の活動へとつながっていけばと思う。

●　成功体験だけでなく，うまくいかなかったことなどについてもしっかりと振り返りを行っていきたい。そして，その失敗を次の成功へとつなげていけるようにしたい。




自分の考えや振り返りを記録する学級会ノート




１年間の学級会や集会活動の記録を掲示しておく学級活動コーナー

（文責　陳野　奈緒実）